

入居企業紹介 その176

SIC に入居されている企業様をご紹介します。

お客様の自動化のお困りごとに、ロボットも仲間 にしたチームでアプリケーションを開発し貢献する



【責任者プロフィール】

ABB株式会社

ロボティクス＆ディスクリート・オートメーション事業本部
サービス／デジタル／エンジニアリング・プラットフォーム
東日本汎用ロボットエンジニアリンググループ
グループマネージャー（兼）アプリケーション・センター長
水谷 博樹（みずたに ひろき）

愛知県名古屋市出身、大学ではダムなどの土木工学を専攻するものの、プログラミングに関連する仕事に関心を持ち、電気制御・画像処理の会社を経て、ABBに入社されたそうです。ご家族を名古屋に残し、調布市で単身赴任中。

趣味は、スキー（ABBスキー部）・釣り（魚を食べたい）

ABBは、1883年ストックホルムの電気ランプ製造会社から始まり、名前は、1988年に合併したスウェーデンのアセア社（ASEA社）とスイスのブラウンボベリ社（BBC）の2社にちなみます。かつては、タービン、電車関連事業なども取り組んでいましたが、電力とオートメーションに特化した事業を経て、現在はデジタル技術に注力するエンジニアリング企業となっています。ロボット事業はその1部門で、世界4大ロボットメーカーに挙げられます。

日本では、1907年（明治40年）にABBジャパンの前身の会社が横浜に事務所を開設し、現在は、ABBジャパンとしてABB株式会社と3社の関連会社から成り、従業員は合わせて約800名、全国22拠点を中心に販売/サービスネットワークを展開しています。なお、静岡県島田市にはテクニカルセンターと呼ぶ、自動車用を主とする塗装機器の研究開発・製造拠点があり、全世界への出荷を担っています。

水谷さんは、東日本汎用ロボットエンジニアリンググループマネージャー及びアプリケーション・センター長として、そして自らも現場を持たれ、多忙な毎日を送られています。

【事業紹介】

SICのラボでは、スタッフ6名・協力会社スタッフ2名で、「ロボット導入の検討・設計・据付・アフターサービス」の業務を行っています。

検討では、お客様の生産現場での状況を再現させロボットシステムの導入による生産性向上をPC上でシミュレーションします。例えば、食品の製造現場の課題では、不具合品の抜き取りで発生する生産量のばらつきの波なども再現し、それを吸収できるようなロボットシステムを構想します。そして、エンドエフェクタと呼ばれるワークを把持するハンドも3Dプリンタなどを使って試作されています。食品分野では、多様な物を扱む・運ぶため、様々なハンドが必要とされ、時に日曜大工的な工作もしているそうです。

【今後の目標】

日本国内では、ロボット大国と呼ばれるように日本製ロボットが強い中で、ABBロボットの個性を生かすことでお客様にご利用いただいているそうです。SICには、ロボット関係のユニークな企業・情報が集まっていることに魅力を感じ、ABBの個性とのよい出会いに期待を込め入居しました。少子高齢化が進み人手が不足する中で、ロボットの活躍の場面は増え、より複雑化、高度化すると思われます。

ABBは、軌跡精度が高い6軸ロボット、パラレルリンクを持ちますが、作業者との共同作業を目指した協働ロボット「YuMi®」のアプリケーション展開に注力しています。YuMi®は、YOUとMEに由来し、人との共同作業を想定していますが、2つの腕を持つことや自由度の高い素早い動きが可能といった特徴を持ちます。

そういった個性を生かし、ロボット単体を含むアプリケーションを開発、ユニークなシステム提案でお客様の自動化に貢献されています。

【取材を通して】

水谷さんが「現場で苦労しても最後には良くやったね、と笑い合いたい。サポートし合えるようなチームにしていきたい。」と話されていたのが印象的でした。

ロボットは、単体では動かず、システム構想をもとに、ロボット・機械・電気・画像処理・エンドエフェクタ・プログラムなど多くの多様な要素を統合して生産性向上の能力を発揮するのと同様に、多くの多様な人々の力を纏め上げて、お客様の喜ぶいい仕事をしたい、という想いが伝わってきました。（SIC 安藤）



左から
水谷・田上・佐藤・荒川・YuMi・西尾・石川・重広

ABB株式会社

SIC-2 R&D Lab. 2212室（ラボ：2113・2114）

URL <https://new.abb.com/jp>



入居企業トピックス

9月の新聞掲載記事紹介（9月28日時点）

新聞紙上に掲載された企業をご紹介します。
ご紹介する記事はSICに掲示していますので、ご覧ください。

8月28日 さくらみらいマネジメントサービス株式会社 神奈川新聞
一ビジネスウェーブ バックオフィスの働き方を変えるRPA—

9月11日 株式会社アド・ソナー かながわ経済新聞
—プラモデル設計、コロナ禍でも好調—

9月11日 高瀬総合法律事務所 かながわ経済新聞
—コロナ禍での人員削減について—

knock!
knock!

SIC空室情報

(令和2年10月1日現在)
※お気軽に稻垣・大谷までお問合せください

部屋	空室数	賃料/月額 (共益費込・消費税抜き)
SIC-1 Startup Lab.	○セミラボB(31.5m ²)	1※1 98,400円
	○スマートオフィスA(23.6m ² ×2)	1※2 157,400円
	○スマートオフィスA(23.6m ²)	1※3 78,700円
SIC-2 Creation Lab.	○セミラボ(50.2m ²)	1※4 172,700円

入居可能月 ※1 11月 ※2 二間続き11月 ※3 令和3年1月 ※4 12月

アフターコロナ 分科会 オンラインミニセミナー



アフターコロナで変化する“社会”と“ビジネス”

10月28日(水)16:00～17:30

タイトル 『新型コロナウイルスによる中小企業への影響と、今後の展望』

講師 近藤裕貴氏 浅井克仁氏 (関東経済産業局 地域経済部 地域振興課 係長)

11月11日(水)16:00～17:30

タイトル 『リモートワークの導入と、運用上の課題』

講師 岡岡 彰氏 (株式会社テクニカルエンジニアリングサポート 代表取締役)

12月3日(木)16:00～17:30

タイトル 『リモート型社会での顧客動向の変化と、非常時こそ振り返る自社の価値』

講師 宮治 勇輔氏 (株式会社みやじ豚 代表取締役社長)

新型コロナウィルスの発生で、社会やビジネス環境がどのように変化しているのか、また急激な環境変化に対応する企業の取り組み事例を、3回シリーズのオンラインセミナーでご紹介します。

方式 オンライン開催(Zoom ウェビナー)

参加費 無料 ※先着30名まで。定員に達し次第、募集締め切り。

受講申込 ホームページより

担当 磯谷(内線:2026)



※単発での受講も可能です。詳細はHPをご確認ください。



ROBOT SEMINAR

自動化技術セミナー開催おしらせ

生産プロセス改善を進めていく上で重要な自動化関連技術
(ロボット、からくり改善、AI/IoT)を学びます。

日時 令和2年10月13日(火)10時～17時



方式 オンライン開催(Zoom)

参加費 無料 ※市内企業優先に先着20名になります。

※詳細はHPよりご確認ください

ご意見箱のお返事です

Q. 女子トイレの石鹼ポンプについて

SIC-2 Creation Lab.の6階女子トイレの石鹼ポンプが1台壊れているので、早めに直していただけたら助かります。

A. SICより回答

Creation Lab.備付の石鹼ポンプが現在生産中止のため、早急な対応ができず申し訳ございません。緊急対応として市販の石鹼ポンプを置いています。10月中に取り換工事を予定しております。その間はご不便をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願いします。



※SICへのご意見箱BOXはSIC1の1Fトイレ前、SIC2の1F事務室前、SIC3の3F食堂内にございます。お困りごとやご提案などございましたら、スタッフはもちろん、ご意見箱もご活用ください。

ロボット
Slr
養成講座

ロボットSlr養成講座
受講者募集中！

日時 令和2年10月21日～12月11日(計10回)



方式 オンライン(Zoom)、集合研修(SIC-2・大会議室)他

参加費 相模原市内企業:120,000円(税別)、
市外企業:150,000円(税別)

※詳細はHPよりご確認ください

編集後記

今年の十五夜・十三夜は10月1日と29日です。月見で一杯ではないですが、10月から酒税法の改正で、ビールの区分が麦芽比率50%以上になりました。麦芽の原料大麦は寒冷地で作られるため、温暖化が進むと味が悪くなるそうです。美味しいお酒づくりのためにも、SICは10月も引き続きCOOLBIZを実施します。ご協力お願いします。(佐藤)